

3年2組

## 羊のよつばちゃんとの3年目の暮らし

～わたしと、よつばと、ふたばと～



## よつばとふたばにとっての幸せを考える



子どもたちと、よつばちゃん・ふたばちゃんのお別れのことを話していく中で、「やっぱり、よつばとふたばにとって何が一番に幸せなのかを考えていきたい」「静岡に行ったしゅんくんと、家族として過ごせるようにはできないかな」という意見が出てきました。「二頭にとっての幸せって何だろう」と問い返すと、この他にも、エサのことや長野小からの距離のことなど、一人ひとりの子がこれまでの二頭との関わりの中で、自分が大切にしてきたことを含んで意見を言っていました。そして、最終的に、その中で一番に優先したい事柄は『めんどろをよく見てくれる』ということにまともりました。行き先を決定していくのは自分たちだから、この方ならと思いを託せる人のもとに2頭をお願いしたいという子どもたちの願いを感じました。

## 託せるわたしになりたいな

『めんどろをよく見てくれるってどういうことか』を具体的に考えていくと、「とにかく、様子をよく見に行き関わってくれる人」、「走ることが大好きな2頭だから、お散歩をしてくれる人」といった意見がありました。そんな中、YNさんは、「私はおいしいご飯をたくさん食べさせてくれる人がいいな。私はいつも、2頭が喜ぶようにと思ってご飯作りをしてきた。けど、栄養のことまでは考えられていない気もするから、お別れするまでにはそういうところも考えていきたい」と言いました。すると、NMさんは、「私は正直、掃除とかエサの用意とかをめんどろって思ってしまう時がある。よく見てくれる人がいいって言いながら自分はできていない気もする。お散歩は自分も楽しくやれるから、これからもっとお散歩の時間を大事にしたい。大切な2頭を引き取ってもらうんだから、自分も一生懸命にお世話してきたからお願いしますって託せるようにならなきゃだめだと思う」と続けました。何を大事にして託していくのかを考える中で、今の自分のお世話について見つめ返していった子どもたち。そこから新たな一歩を踏み出していこうとする子どもたち。大事にしてくださいと言って2頭を引き取ってもらうのだから、大事にできましたと胸を張って言える自分たちでありたい。そんな思いを感じました。



## 本当にいろいろなことがあったね ありがとう



よつば・ふたばのお別れの日、「最後に一周、みんなでお散歩に行きたい」と、子どもたちはお散歩に出かけました。よつばってさあ…、ふたばってさあ…、と語らいながらお散歩をする最後の時間。「なんか実感わかないんだよね」と話すKKさんやOMさんがいました。最後の一周と頭で分かっているにも関わらず、まだこれからも続いていくような、整理のつかない感じ。傍らにいた教師にはそう感じられました。トラックを見送る時は、笑顔で見送る子、じっと静かに見つめる子、涙を拭いながら下を向く子など、多くの感情が入り混じっていました。声にならない声を出しながら泣いている子どもたちの所へ向かい、何か声をかけようとした教師でしたが、距離が近くなるほどに言葉にすることが憚られていきました。そして、ただ近くで、腰を下ろすことしかできませんでした。それは、言葉にできるほどのものではないと感じたからです。思いが詰まっているから、たくさんの言葉の代わりに、たくさんの涙が出ているように思ったからです。よつばと出会って約3年、ふたばが生まれて約1年、『本当にいろいろなこと』がありました。子どもたちは、その時々で、一生懸命に考えて選択をしてきました。だから、やってきたことや過ごしてきた時間が唯一の『本当のいろいろなこと』だと思えます。よつばがいて、ふたばがいて、私たちがいた日常が、たくさんの本当のことになっているように思いました。